

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白山小学校（新潟県）【指定校】

【取組内容】 校内公開授業の協議会場面におけるクラウド活用の工夫

【2024年度】LDX研修会 & 新潟市教委要請訪問 **Aグループ**

個別最適な学び

考え方を共有することで、最初の問題に近づいていく。子どもへの支援となったが、テープ図を修正して、内容を理解するのは難しくなった。

最初の課題を解く際にすでに解けた子はタブレットで後進の考えを確かめたりして、先生がその子の手への対応にまわることができた。つまり、いろいろな先生からの声かけで考えを促すことができた。

ヒントカード等を活用できるのは、自分のペースで進められてよい。進んでいた子どもも多かった。

協働的な学び

自分の考えをわかっていないことを意識し、自分の考えを説明して見せようとした。グループで、協働的な学びにも取り組んだ。

全部と部分に分けていた。既読事項であるから、既読文で確認できる人（先生）ができてきたことはよかった。

学習の過程はできていたと見られ、自分の考えを説明する機会に恵まれた。しかし、〇ししたいところについては理解ができていない子どももいる。

探究場面は有効だった。

(参考) 指導案

問題づくりをした人の問題を事前に聞いて、考えの仕方を共有し、自分の考えを説明する機会が多かった。

自分の考えをどうしてそのテープ図になったのかを説明するのが難しかったのようで、考え方の転換はどのくらいあったのか疑問である。

終わった子ども同士考えを交流して、もう少し、子ども場面が見え、自由話し合っているように感じたい。

テキストを追加

校内研修における授業公開後の協議会を、紙ではなく、タブレットを用いて進めた。

また、Googleクラスルームを用いて、指導案や当日の流れについての資料もクラウド上に集約し、タブレット1台があれば、研修に参加できるようにした。

協議会では、デザイン統合ソフトを用いて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点で「手立ての有効性」や「課題と改善策」について話し合った。回数を重ねることで、職員はアプリの扱い方に慣れていった。

協議会の終末では、Googleドライブを用いて「授業の様子を撮った写真や動画」を共有した。これらがクラウド上に蓄積されていくことで、各授業の成果と課題が参照しやすくなり、研修の積み上げに効果的であった。

